

第5回 小諸市長期学校改築計画検討会

議事概要

日 時：平成29年5月22日（月）19：00～21：10

場 所：小諸市役所3階 第1会議室

【出席者】

委 員 13名（欠席者 尾芦委員、山口委員、福田委員、大池委員）
事務局 5名

【日 程】（進行3、4は座長 他は教育次長）

1. 開 会
2. あいさつ 渡辺座長、小林教育長
3. 前回の振り返り 金井学校教育課長
4. 小中一貫教育について //
5. その他 第6回 日時：平成29年6月29日（木）19：00～
視察研修 日時：平成29年7月12日（水） 8：00～12：45
視察先：信濃町立信濃小中学校
第7回 日時：平成29年7月24日（月）19：00～
6. 閉 会

【会議録】

4. 中1ギャップの現状と小中一貫教育について

委員：中1ギャップが指摘されるようになったのは、不登校の問題が一番のきっかけだったように理解している。不登校児童生徒数は、中学校1年で多くなることから、中学校入学後の生活の変化や、教科担任制になることなどが要因ではないか。対策として以前よりそれぞれの小中学校が工夫しながら取り組んできて、中学校の先生が小学校に出向いて授業をしたり、逆に小学校6年生が体験入学で中学校に行って1年生の授業を見学したりしている。また、入学説明会では、6年生が中学校の説明を受け、授業を見学している。小中のつなぎについては、現在、大事な課題として中学校でも取り組んでいると思われる。不登校の現在のデータでは、中学校1年より中学校2年のほうが多くなってきている。不登校は中学生になると多くなるが、小中のつなぎの部分は各学校で気をつかって大事に取り組んでいるのではないかと思う。

委員：環境の変化から子どもたちに色々な影響が現れる。主には、授業スタイルの変化やテストの点数や成績などだ。また部活動も大きな違いの一つと思われる。小中一貫校は、5年生から教科担任制を導入するというのが一つの目玉だと思う。私が見た小中一貫校では、全校800人もいるわりには整然としていた。制服を着た中学生と私服の小学生が同じ校舎の中で自然に混じっており、意外と違和感がなく雰囲気もなかなか良かった。資料で「小中一貫教育制度の成果と課題」とあるが、実際に導入した学校では不登校が減ったり、いじめがなくなるなど、変化がみられるのか知りたい。小中一貫校の課題として資料にある、「人間関係が固定化し、多様な人間関係を経験しにくくなる」「小学校高学年にリーダーシップを育てる機会が減少する」が気になる。以前視察した事例では、当初小中一貫校と決めたが難しい面もあるので、小学校は小学校、中学校は中学校と独自にやる部分をつくり、無理のないように連携することに方針を変えたと聞いている。これは小諸市よりも大きな市での事例だが、小中一貫校の募集は広く希望をとっていると聞いた。仮に小諸が小中一貫校を導入する場合は、どのような一貫校をいくつつくるかなど、様々なケースがあるだろうと考えた。

4. 小中一貫教育についての説明を受けての感想・視察で確認したいこと

◆視察で確認したい事項

- 小中一貫校では、卒業生が地域に帰ってくる教育としてどのようなことをしているか。
- 小中一貫校になると、小学校が各々で行っている行事の継続的な運営が困難とならないか。（学校によっては伝統的な事業を行っている事を考慮して）
- 小中一貫校を立ち上げることによって、コミュニティスクールの取組みで、地域住民との連携が希薄になってしまわないか。
- 小学校時代のいじめや不登校が中学校になって改善される例もあると思うが。中2で不登校生徒が増えるのは何が原因か。
- 小学校高学年のリーダーシップの育成の課題はどうか。
- 信濃町が行った5つの小学校の統合で、一番問題と思われたのは何か。
- 通学の方法、課題、時間など現状を知りたい。
- 学力を「育てる」社会性を「育てる」ことが学校の使命となってきた。
「育てる」には時間がかかる。そのためにも小中一貫教育は必要となる。問題は具体的に子どもの何がどのように育っていくのか、評価を全職員で進めマネジメントしていくこと、そこが本当に運用されているのか。

- 小中一貫教育を進めるには、地域の協力が必要となる。どのような支援体制ができているのか。
- 学力向上に効果はあるのか。
- 中1ギャップが解消されたとしても、9年間同じ仲間であった者が高校に進学した時に、高1ギャップが起きないか。
- 廃校になった後、地域コミュニティに変化はないか。(行事や伝統、人口など)
- 廃校後の跡地利用はどうなったか。(防災拠点、避難場所等)
- 通学距離・通学時間・交通安全等、どのような対策がとられているのか。

◆小中一貫教育の説明を受けての感想、意見

- 小中一貫校は「中1ギャップの緩和が期待される」とあるが、小学校の人間関係の延長線上になる危険性も考えられる。いい意味のカルチャーショックギャップも必要と考える。
- 小中一貫校による「中1ギャップの解消」という効果は、あまり期待できないように感じた。
- 中1ギャップがあることによって、逆に心機一転、気持ちが新たになることもある。
- 中1ギャップが緩和される可能性は嬉しい反面、子どもの成長にとっては必要だとも思う。
- 一つの廊下を低学年の子どもと大きな子どもがすれ違ったり、仲良く話したりする姿を小中一貫校で想像すると、ステキだと思った。
- 15歳の子が7歳の子の世話をする微笑ましい景色が想像できる。広い地域から集まるので、一概に人間関係が固定するとは言えないのではないかな。うまく異年齢同士交流すれば良いと考える。
- 小学校高学年がリーダーシップをとる機会は、小中一貫校になっても小学校6年生と中学生との会議というような場を作れば、解決できるのではないかな。
- 9年間を通じた、しっかりした教育課程が編成できるか否かが、極めて重要なこととなると思う。
- どの教科を教科担任制にすると効果的か、興味がある。
- 9学年もあるので、体育館やプールなどの共有スペースの施設面が厳しそう。
- 教職員への負担が多いということを考えると、教員の確保が課題だと思う。
- 教職員の負担感・多忙感の解消が課題という点が気になる。
- 教員の意識の向上が最も大切なことだ。
- 進学の実力が狭まる気がする。私立中学を希望する場合、進学の実力がなくなってしまうのではないかな。

- 学習面の強化を目的とされ、行事(学生時代の思い出)が減少されると思う。
- 小中一貫校は、地理的にも予算的にもどこにいくつの一貫校を作ることが可能なのか。信濃町も佐久穂町も「統合」の先に一貫校があるが、小諸市で導入するとしたら何のための一貫校なのかがもうひとつはつきりしない。選択肢の一つとしては魅力があると思うが。
- 他の小中一貫校の事例をみると、1年生～8年生までは3クラス、9年生だけが4クラスとなっているので小諸市でもできるのではないかな。
- 例えば既存の中学校の校舎を利用して小学校2校が小中一貫校となった場合、途中から他の小学校の児童が入学することは可能なのか？そういう事例はあるのか知りたい。
- 信濃町や佐久穂町のように一町で1つの学校の場合はある程度イメージできるが、小諸市の6小学校2中学校の場合、仮に導入する場合どのように再編するのかイメージできない。
- 佐久穂小中学校の視察を希望する。
- 小諸市と同規模の地域の現状で見てみたい。3または4つの義務教育学校を作ると、1000人～700人規模の学校となるが、ふるさと学習や地域性はどうなるのか気になる。